

みんなで支え合うまちづくりフォーラム in 大川

住み慣れた地域で、安心して自立した暮らしを続けていくために



堀田会長（右）と鳩山市長との調印式

2月12日(金)、市文化センターにおいて「みんなで支え合うまちづくりフォーラム in 大川」が開催されました。

このフォーラムは大川市と公益財団法人さわやか福祉財団が開催したもので、「高齢や障がい問わず、誰もが住み慣れた地域で、安心して自立した暮らしを続けていくために何ができるか」について学び、一緒に考えることを目的に開催されました。

フォーラムには、地域団体やボランティア団体などから140名の参加者があり、介護保険制度や助け合いの地域づくりに関する講演を聞いた後、グループに分かれ、地域の課題やこれから目指すまちづくりの姿について話し合いが持たれ、活発な意見が交わされました。

また、フォーラムに先立ち、「大川市・公益財団法人さわやか福祉財団包括連携協定書」締結調印式が行われました。



支えるスポーツ

みんなで創る助け合いの社会

さわやか福祉財団の堀田力会長の「みんなで創る助け合いの社会」と題した講演がなされ、全国の事例を紹介しながら、近くに住んでいる人は手軽に助け合える互助組織や地域での居場所づくりの提案がありました。



堀田力会長の講演

地域包括ケアシステムの構築

厚生労働省老健局の服部真治課長補佐から介護保険法の改正で市町村ごとに地域支援事業に取り組むことになったことが説明されました。

これは団塊の世代が75歳以上となる2025年を目前に、重度の要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制(地域包括ケアシステム)の構築を実現しようというものです。



一人ひとりが活躍の場

参加者が地域ごとにグループに分かれ、カードを使ってゲーム感覚のワークショップを行い、司会者の進行のもと「どんな地域になってほしいか」「一人ひとりが地域で何ができるか」を話し合いました。

「自由に仲良く明るい町」「花いっぱい町」「寄り合いのある町」といった求める地域のイメージに対し、「カレパーティ」をやってみよう、「御用聞き」をやってみよう、「誰でも自由に座れる」イスを家の前に置いてみたいなどと、自分ができることや、やってみたいことの発言が活発に出ていました。

ワークショップの終わりに、司会者の「地域の生活支援に協力できる人は!」の声に、たくさんの方が「できる」という意思表示「ある」のカードをあげていました。

これからがみなさんの出番

終了後、たくさんの方の感想をいただきました。

「一年をとっても自立を続けることが大切。自分でできることで人を支え合うことが大切」と思いました。「寝たきりでも傾聴ボランティア」「添い寝ボランティア」など、自分では何もできないと思わないで、何かできることはいいですね」と、前向きな意見を目にするのができました。

大川市では、これから地域包括ケアシステムづくりについて具体的な動きが出てきます。これからがみなさんの「出番」です。次回の研修にはぜひあなたもご参加ください。



活発な意見が出たワークショップ